

令和7年10月9日

名古屋市立大学における研究上の不正の有無に係る調査結果について

1 事案

平成25年に医学英文誌「PLOS ONE」に掲載された本学の教員が執筆した原著論文が、掲載画像に疑義があることを理由として、令和6年11月23日付で、PLOS ONEの判断で撤回(retraction)されました。

それを受けて、名古屋市立大学における研究上の不正に関する取扱規程に基づき予備調査委員会を設置し、予備調査にて、研究活動における改ざんが存在した可能性の有無について審議し、その結果、研究上の不正が存在した可能性はないと認定しました。

2 調査対象論文

- ・論文名: Effect of Adiponectin on Kidney Crystal Formation in Metabolic Syndrome Model Mice via Inhibition of Inflammation and Apoptosis (DOI: 10.1371/journal.pone.0061343/April 2013 Volume 8 Issue 4 e61343)
- ・和訳: 炎症とアポトーシスの抑制を介した、メタボリックシンドロームモデルマウスにおける腎結晶形成に対するアディポネクチンの効果
- ・著者: 藤井 泰普(筆頭著者)、岡田 淳志(責任著者)、安井 孝周、新美 和寛、濱本 周造、廣瀬 真仁、窪田 泰江、戸澤 啓一、林 祐太郎、郡 健二郎

3 論文撤回の概要

PLOS ONE から原著論文の図6に関して、以下の懸念が提起されました。

懸念の内容

- ① 画像の一部に、類似性・相同性がある。
- ② 画像の一部に、切り貼りの跡を示唆する垂直方向の不連続がある。
- ③ 左の列と右の列のβ-アクチンパネルは類似している。

著者らは、図6の生データについて、本学の規定に基づき、10年間保管後、破棄したため、当該懸念の検証は不可能とし、PLOS ONEの許可のもと、再実験による図6の検証を実施し、再実験のデータを提出しました。

これに対して、PLOS ONEは、生データがないために、図6の疑義が払拭できなかったことと、生データの代替として行った再実験の結果が論文結果を完全に支持するものではないと判断し、撤回が確定しました。

4 調査結果

上記について、予備調査委員会が調査し、以下のとおり確認しました。

- ① 外部業者による画像解析結果等から、指摘されたレーンの画像に類似性・相同性はない。

- ② それぞれのタンパクのバンドは、同一のゲルからの結果であり、投稿当時（平成24年）の、画像の切り貼りは、同一ゲル内で行うという一定のルール内で実施されている。
- ③ β -アクチンパネルについては、同一のものを貼り付けていることを確認したが、これは単に図表の見やすさを考慮したものにはすぎない。

5 結論

当該懸念については、以上の理由により行われたものであり、予備調査委員会は、改ざん目的での行為ではなく、研究上の不正が存在した可能性はないと認定しました。

予備調査委員会としては、当該懸念について、PLOS ONE において誤認が含まれていた可能性がある状況下で、十分な検討が尽くされないまま撤回の判断が行われた点については、適切さを欠くものと受け止め、遺憾の念を表します。

【問い合わせ先】

担当 名古屋市立大学 研究推進課

電話 : 052-853-8008

E-Mail : kenkyukanri-all@sec.nagoya-cu.ac.jp